

第一節 癒しの朗読というものがある

一、癒しの朗読

今まで朗読は鑑賞（楽しみ、憩い、教養など）を目的にされてきましたが、私達はこれとは別に、癒し（精神と身体を改善し、人間を進化させる）目的の朗読を目指すことにしました。なぜなら、コトバは言霊（ことだま生命を表現するもの）であり、また声（人の心を翼に乗せて運ぶもの）でもあるからです。

生命は限りなく生命（活力）を生み、進化を続けます。それなら生命である私達は言葉で言霊（生命）を作り、それを声に乗せて運びます、どこまでも。私達は言葉で生命（言霊）を四方へ運ぶことを希願したものです。その証拠に自然音楽研究所には、三つの癒しのコース（自然音楽、リラの響き、

朗読）があります。どれも声で作られる生命の乗り物です。そしてその中の一つ「癒しの朗読」は現実には、強い癒しの効果を発揮しつつあります。

〈参考〉

（宇宙の）いちばん奥のところに、いのちというリズムがあつて、それが言葉となつて降つて来る。

詩人はそれをかき集めて形をつくる役

音楽家は耳で聞きとつて譜面にせいりする役

彫刻家や画家は、色でそれを仕分けしたり、造型で印象づける役

みんなこれを芸術と呼ぶが、元は一つ、源はいのちだ。いのちはリズムというピチピチ旋動し、動いてとらえられない何かだ。

朗読は、詩人や作家がとらえたリズムの言葉を、原型（リズムは音、声なのだ）で直に表現してみせる大役者だ。